

## 自己評価報告書

平成23年 5月 2日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008年度～2011年度

課題番号：20720164

研究課題名（和文） 東アジアにおける儀礼文化の比較歴史学的研究

研究課題名（英文） Reception and Transfiguration of the Chinese Rites in its Pervasion throughout Eastern Asia

研究代表者 稲田 奈津子  
(東京大学・史料編纂所・助教)

研究者番号：60376639

研究分野：日本古代史

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：比較歴史学 東アジア 儀礼 喪葬 律令制 正倉院

## 1. 研究計画の概要

東アジア世界において、中国礼制にもとづいた儀礼は、それぞれに固有の要素を加えながらも、通時代性・越境性を持つ普遍的な存在として存続し続けてきた。儀礼の持つこうした特質に注目すれば、史料的限界のある地域・時代についても、異なる地域・時代の事例との比較によって、歴史像の復原が可能になる。またその差異から、固有の文化的特徴が読み取れる。こうした視点から本研究では、以下の3つの課題を計画している。

(1) 比較研究の主軸としての律令制儀礼の研究…新発見史料である「天聖令」を中心に、東アジアに大きな影響をもたらした唐代の儀礼を検討し、朝鮮半島や日本の儀礼との比較を試みる。

(2) 各種儀式書の比較研究…唐代の『大唐元陵儀注』と朝鮮王朝の『国朝五礼儀』、平安時代史料等を比較する作業を手始めに、郊祀・宗廟祭祀の日本における受容や、婚姻や誕節などの各種儀礼の具体的分析を、史料調査を踏まえておこなう。

(3) 儀礼関連史跡の調査…儀式の場や遺物の調査をおこない、文献史学の立場から、文献に記された施設・道具との照合を中心に検討していく。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 比較研究の主軸としての律令制儀礼の研究…新発見史料である北宋天聖令のうち、儀礼関連篇目を中心に検討した。天聖令の新発見により、儀礼関連篇目に関しては、従来の予想以上に、日本令が唐令に依拠していたことが判明した。そこで中国礼制の普遍性や、礼と法制度との関わりを再検討するために、天聖令と南宋期の法典である慶元條法事類

との比較をおこない、南宋にいたるまで唐令の制度がほとんど変化することなく存続していたことを明らかにし、〔雑誌論文〕⑥を執筆した。

(2) 各種儀式書の比較研究…唐代皇帝喪葬儀礼について記す『大唐元陵儀注』の注釈作業を完成させ、〔雑誌論文〕③⑤を執筆した。この成果をふまえ、朝鮮王朝時代の国王喪葬儀礼について記す『国朝五礼儀』凶礼部分の注釈作業をおこない、その一部を〔雑誌論文〕①にまとめた。これにより、朝鮮王朝初期における中国儀礼受容の具体相を明らかにするための比較作業が可能となった。

(3) 儀礼関連史跡の調査…皇帝陵・国王墓・墓誌出土地などの喪葬儀礼関連史跡を中心に、日中韓の史跡・遺物調査を継続的に実施している。

(4) そのほか…儀礼研究を進める上で参考となる正倉院宝物や墓誌史料について、検討をおこなった。東京大学所蔵の卷子本『正倉院御物写』の検討をおこない、その成果は〔雑誌論文〕②④、〔学会発表〕②③、〔図書〕①などとして公表し、さらに継続して関連資料の調査検討をおこなった。また日本古代の墓誌について、出土地の踏査をおこない、また周辺諸国における考古学成果などをふまえて再検討し、〔学会発表〕①で報告した。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

上記3つの課題のうち、「(1) 比較研究の主軸としての律令制儀礼の研究」について、まず天聖令の（喪葬令を中心とする）篇目全体を整合的に理解する必要があると考え、条文排列や前後の時代との継承関係について検討をおこなった。そこでの検討は概ね受け入

れられ、本史料を扱う上での共通認識になったと考えている。その後、天聖令に関する研究が国内外でさかんにおこなわれるようになり、喪葬令についても個別条文の内容にまで踏み入った議論が可能な状況になってきている。こうした状況をふまえ、今後はさらに詳細な検討が必要となってくるであろう。

「(2)各種儀式書の比較研究」については、『大唐元陵儀注』や『国朝五礼儀』に関する分析の着実な進展に比べ、郊祀・宗廟祭祀や婚姻や誕節などの各種儀礼の具体的分析については、あまり進めることができなかった。これは近年の考古学調査の成果をふまえ、本研究課題により効果的と思われる、金石文を用いた比較研究の試みを始めたためであり、今後の研究の進展具合によっては、こちらに重点を置いた計画へと変更していきたいと考えている。

「(3)儀礼関連史跡の調査」については、国内外の関連史跡や遺物の調査を継続的にこなしてきており、(2)での成果との照合を中心に、着実な成果が蓄積されてきている。

以上のほかに、儀礼研究に関連して正倉院宝物をめぐる検討をおこなったことで、理念的な視点に傾きがちであった当初の研究計画に、実態面からの成果を加えることで、計画全体に厚みを加えることができたものと考えている。

#### 4. 今後の研究の推進方策

(1)比較研究の主軸としての律令制儀礼の研究…呉麗娛氏による天聖令を用いた唐喪葬令の総合的な復原研究に関して、研究代表者が執筆した批判論文に対し、呉麗娛氏による再批判論文「關於《喪葬令》整理復原的几个問題—兼与稻田奈津子商榷」が発表されている。そこで本論文の検討を手がかりに、天聖令および唐令の喪葬令について再検討をおこなうとともに、朝鮮半島・日本との関わりを考察していく。

(2)各種儀式書の比較研究…これまでに注釈作業を進めてきた、唐代皇帝喪葬儀礼について記した『大唐元陵儀注』と、朝鮮王朝期の国王喪葬儀礼について記した『国朝五礼儀』とを中心として、さらに内容分析の精度を高めるとともに、両者の具体的比較検討を試みる。そのうえで、日本古代における中国礼制の導入について、再検討をおこなう。

(3)墓誌を用いた東アジア比較研究の試み…日本古代の墓誌に関して、中国・韓国における近年の考古学調査の飛躍的な進展をふまえた再検討を試みる。それと関連して金石文の出土を伴う仏教儀礼関連史跡の調査も計画している。

(4)儀礼関連史跡の調査…ひきつづき国内外の儀礼関連史跡（特に金石文出土地を中心に）の現地調査を進める。

#### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計12件）

①稻田奈津子「『国朝五礼儀』凶礼試釈—東アジア儀礼文化の比較歴史学的研究をめざして—」『訪韓学術研究者論文集』（財団法人日韓文化交流基金）、査読無、11、2011年、95-140頁

②稻田奈津子「正倉院文書調査の過去と現在」『木簡と文字』（韓国木簡学会）、査読有、5、2010年、129-145頁

③金子修一・稻田奈津子・小倉久美子・鈴木桂・河内春人「大唐元陵儀注試釈（終章）」『國學院大學大学院紀要—文学研究科—』、査読無、41、2010年、21-53頁

④稻田奈津子「森川杜園『正倉院御物写』と日名子文書」『正倉院文書研究』、査読有、11、2009年、85-104頁

⑤金子修一等（分担執筆）「『大唐元陵儀注』概説」『文史』、査読有、85、2008年、153-167頁

⑥稻田奈津子「慶元条法事類と天聖令—唐令復原の新たな可能性に向けて—」大津透編『史学会シンポジウム叢書 日唐律令比較研究の新段階』、査読無、2008年、77-96頁

〔学会発表〕（計3件）

①稻田奈津子「日本古代墓誌の系譜」2010年度ドクター研究員プロジェクト（代表：牧飛鳥）「日本古代の墓誌の再検討」研究会、2011年1月29日、大阪市立大学

②稻田奈津子「正倉院宝物と文化財調査」第7回日研フォーラム、2010年3月8日、高麗大東洋学研究所

③稻田奈津子「正倉院文書調査の過去と現在」韓国木簡学会第7回定期発表会、2010年1月15日、ソウル市立大東洋学研究所

〔図書〕（計1件）

①東京大学大学院工学系研究科建築学専攻・東京大学史料編纂所画像史料解析センター 編集・発行『森川杜園『正倉院御物写』の世界』2009年、48頁

〔その他〕

新聞報道「正倉院宝物模写 100点 東大所蔵 明治期、模造の下絵に」（読売新聞 2008年12月9日夕刊（大阪本社）3・4版）

新聞報道「正倉院宝庫の「日名子文書」 幕末の国学者 流出関与？」（読売新聞 2009年3月19日夕刊（大阪本社）3版）